

序章

都市計画 マスタープラン とは

この章では、都市計画マスタープラン見直しの経緯を整理し、都市計画マスタープランの役割や計画の位置づけ・構成などを提示します。

成長社会から脱成長・成熟社会において、都市計画が担うべき役割、都市計画マスタープランの枠組みでできることを整理しています。



1 都市計画 マスタープラン 見直しの経緯

(1) これまでの都市計画

これまで、都市計画により同時に複数の開発事業が展開される中でも無秩序な市街化が進まないよう、用途地域などの地域地区により望ましい市街地形成を誘導し、道路や公園などの都市施設を計画的に整備し、都市環境の機能を向上させてきました。

横須賀市においては、平成8年3月に横須賀市都市計画マスタープランをはじめて作成しました。当時はバブル崩壊から数年が経過し、高齢化社会への進展、価値観とライフスタイルの多様化などへの対応が課題として認識されはじめた頃ですが、湘南国際村、横須賀リサーチパーク、海辺ニュータウンの整備や、横浜横須賀道路延伸など広域幹線道路の整備など数多くの大規模な開発事業が進められている時代でした。

このような大規模事業が既成市街地とバランスを取りながら進められるよう、都市計画マスタープランでは、都市づくりの基本的方針と都市整備（ハード）分野の計画を先行検討し、民間事業者への規制と行政主体によるインフラ整備を主として都市づくりを進めてきました。

◆大規模な開発事業



馬堀海岸



湘南鷹取

(2) 都市を取り巻く状況の変化

我が国の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前の明治時代後半の水準に戻る推計が出ています。この変化は、千年単位で見ても類を見ない極めて急激な人口減少となる予想です。

これまでの人口増加時代は、都市空間が不足するという「過密」な状態を解消するために区画整理や土地の高度利用などにより、合理的で健全な市街地が形成されるよう都市づくりを進めてきました。しかし、人口減少時代へ移行しても従来どおりの方法で都市づくりを進めてしまうと、都市空間にゆとりができる「疎」の状態になるだけでなく、不要な空間を整備してしまったり、余った空間の荒廃を招いてしまうこととなります。よって、従来の都市づくりの進め方、ルールではうまく進まない状況に陥ってしまいます。

さらに、自然災害の激甚化・頻発化、都市の暑熱環境の悪化など顕著に市民生活に影響を与えるリスクへの対応や、カーボンニュートラルの実現に向けた対応などが求められています。かつては投資・開発において経済的利益が優先されてきましたが、環境や社会に配慮して事業を行い、適切なガバナンス（企業統治）がなされている会社に投資しようというESG投資が広がりを見せており、持続可能な社会の実現に向けて経済成長と環境保全の両立も求められています。



出典：平成27年防災白書 内閣府



出典：グリーンインフラ実践ガイド 国土交通省

(3) これからの都市計画とマスタープラン見直しの方向性

社会経済状況が大きく変化しているため、価値観を転換させながら都市づくりにおける課題に立ち向かう必要があります。具体的には、自然環境が本来持つ生成力を取り戻しながら都市の再生・修復を進めたり、テクノロジーの活用により都市の利便性や効率性の向上につなげていきます。

本計画は、「横須賀の未来」を考えながら、積極的に都市の課題解決に向き合うために、都市づくりの大きな方向性を示す「ビジョン編」と、気運を逃さず、都市づくりに資する事業に機動力を持たせるための枠組み「プラン編」の2編で構成します。

序章

2 計画の役割

(1) 計画の役割

都市計画マスタープランは、主に次の役割を担います。

1) 都市づくりにおける戦略的な枠組みの提示

都市の「開発」の道すじを示す計画から、都市を「リノベーション」しやすくするための方向性とまちづくりをマネジメントするための「戦略的な枠組み」を示す計画とし、市民生活の質の向上につなげます。

2) 都市づくりの大きな方向性の提示

移り変わりが激しい時代や不確実な要素が多い状況下では、まちの様子や社会条件は刻々と変化していくため、現在見えている課題だけにとらわれず、長期的な視点に立って都市づくりの大きな方向性を示します。

3) アクションプランによるまちづくりの円滑化

まちづくりには機動力、弾力性、実現性が求められるため、まちづくりの気運が高まったタイミングで取組を総合的・体系的に展開する行動計画（アクションプラン）を作成し、それを本計画の一部として運用します。

3 計画の位置づけ

(1) 計画期間

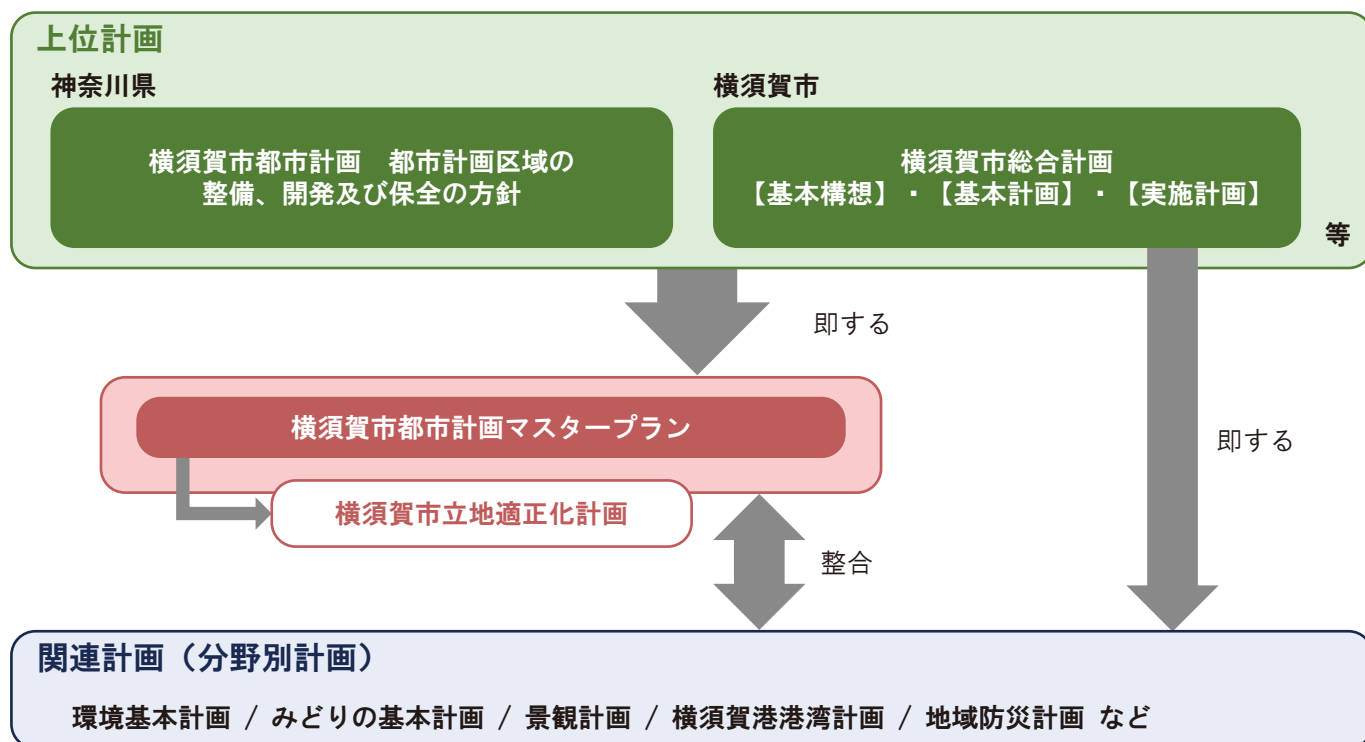
概ね 20 年後の都市の姿を展望し、本計画の計画期間は令和 17 年度（2035 年 3 月）までとします。

(2) 計画の位置づけ

都市計画マスタープランは、神奈川県が定める「横須賀都市計画都市計画区域の整備、開発、保全の方針（整開保）」や市の上位計画である総合計画に即し、関連する本市の分野別計画と整合を図っており、連携しながら計画を運用していきます。

なお、横須賀市立地適正化計画に示した住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する基本的な方針については、本計画の一部とします。

◆上位関連計画との関係性



4 計画の構成

横須賀市都市計画マスタープランは、本計画の基本的な事項を示す序章（本章）、都市づくりの大きな方向性を示すビジョン編（第1章・第2章）、まちづくりの気運を逃さず機動力を持たせるための枠組みプラン編（第3章）で構成します。

また、資料編には、用語の解説や本市の現況などの情報をまとめています。

◆計画の構成

序章

・都市計画マスタープランの役割、位置づけ、構成を示します。

ビジョン編

第1章 都市づくりの目標・将来都市像

・今後の都市づくりの目標・姿勢や将来都市構造について示します。

1 横須賀のまち

・位置と地形、都市づくりの歴史、地域ごとのまちなみについて示します。

2 横須賀の個性と魅力

・横須賀らしさを感じられる点や横須賀の魅力について示します。

3 都市づくりの目標・姿勢

・都市づくりを行う上で目標や姿勢について示します。

4 将来都市構造

・将来都市構造、拠点・軸・ゾーンの配置について示します。

第2章 都市づくりの方針

・「土地利用」「インフラ」「交通政策」3つの分野で構成し、都市づくりの方針を示します。

1 土地利用

・保全・修復・整備をうまく組み合わせながら土地利用を進めます。

2 インフラ

・グリーンインフラとグレーインフラを組み合わせることで都市基盤づくりを進めます。

3 交通政策

・道路環境の整備に加え、交通に関する問題の緩和・解決に向けた政策に取り組み、人・モノ・サービスが自由に移動できる都市を目指します。

4 都市づくりのイメージ

・土地利用、インフラ、交通政策の分野を越えて取組を実施することで、まちの課題を解決したり、魅力を活用していきます。



プラン編

第3章 アクションプラン作成に向けて

・まちづくりの気運を逃さず機動力を持たせるための枠組みを示します。

資料編

・用語の解説、本市の現況などについて示します。

